

季節の花を用いた大型空間ディスプレイの制作

大阪府立園芸高等学校 フラワーファクトリ科

第3学年 切花アレンジ専攻 酒巻あゆみ・南遥香

1、目的

近年花業界で求められる人材はフラワー装飾に関する技術を幅広く持っていることであり、従来の西洋から伝わったフラワーアレンジメントの知識や技術だけでなく、日本古来から継承されてきた華道の技術を持っていることが有効である。本研究では、長年花業界に携わってきた専門家の方から講義および指導を受け、実際に制作することを通して広い空間を飾る大型ディスプレイの制作技術を身につけることを目的としており、平成27年秋より継続している研究である。

2、実施計画

平成27年秋～平成29年11月	剣山方式あるいは投げ入れ方式の実習	個人で制作
平成29年12月 2日	投げ入れ方式の実習（大作）	2～3名1組で制作
平成29年 9月11日	投げ入れ方式の実習	個人で制作
平成29年12月 1日	投げ入れ方式の実習（大作）	個人で制作

3、実施

平成29年9月11日 投げ入れ方式の実習



酒巻 あゆみ



南 遥香

平成29年12月1日 投げ入れ方式の実習（大作）



酒巻 あゆみ



南 遥香

4、考察

3年間の華道の実習を通して、その面白さや魅力について感じる事ができた。最初の頃はフラワーアレンジで用いる吸水性スポンジといった留め具がないため、植物を思うように生けることができず、難しく感じていた。しかしたくさんの実習を通して、植物の留め方や空間の見せ方、大きな枝物の使い方、さらには花材1本1本が持つ草姿の美しさを生かすことができることを学び、フラワーアレンジにはない魅力を感じるようになった。また、花材が少なくても大作を制作することができるため、農業クラブ大阪府大会の会場装飾や進学フェアでのデモンストレーションなど様々な場所でこの技術を生かした装飾を行い、高評価を得たことは、自分たちの自信となった。3年間の集大成として3月1日の卒業式の会場を装飾し、多くの人に感動を与えたい。